

平成27年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	21世紀のおやき作り ～粉を活かした元気な村づくり～
事業主体 (連絡先)	上生坂 夢の里山の会 会長 中山秀夫
事業区分	(6) イ産業振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	734,919 (内支援金535,000)

事業内容

- 技術向上のため、おやき、びざ、ぱん等の商品開発の試作作りや研修を(延べ12回)を開催した。
- 販路拡大と会の知名度を上げるため、月2回の注文販売のチラシを配布し、宣伝活動を行った。
- 設立間もない会の収支を安定させるため、1品の新商品を開発販売した。
- 施設の安全対策と商品の品質向上等のため、不足していたおやき釜のフードやおやき焼印、冷凍庫など施設や道具の充実を行った。



【パンの研修会】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 会の設立から時間の経過と共に会員同士の交流が図られた。また、それと同時に会の運営に向け、会員一人一人が当事者意識を持てるようになり、商品を売るという活動に対して積極性が出てきた。
- ② 研修会や講習会の結果、おやきやパン・ピザの技術向上が図られた。また、新商品の開発を行う事が出来、販売活動が活発になって来た。
- ③ 村内において、チラシ等の効果が表れ、イベント時や月2回の注文販売の日には、リピータが増えつつある。

【目標・ねらい】

- ① おやきの加工技術を向上し、特産品としての更なる普及を図る。
- ② 会と商品の知名度を上げて、順調な企業活動のためにPR活動を行う。
- ③ 会員会の交流

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ① 新グループ「夢の里山 こなもん工房」の健全な企業活動に向けて、更なる高品質のための技術研修と新商品の開発を行う。
- ② 作業の効率化と安全性を図る。
- ③ 本格的な販売に向けてチラシ等PR活動を行って行く。
- ④ 会のスムーズな運営のため、会員間の交流を図る。

※自己評価 【 B 】

【理由】

この会を将来的に、村内の就労場所として位置づけ、収益が上がる運営を行うためには、商品の品質を上げながら、新商品の開発が必要であり、今年度は1品の新商品を開発出来た。今後も随時技術の研鑽と商品開発を行う。

また、月2回の「こなもん工房の日」に合わせたチラシは、会の知名度を上げつつあり、今後配布地域の検討をしつつ継続していく。

(別記様式第12号) (第3の8関係)

- ※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた  
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある